

ぶなのもり
はっぴよつかい



しがいわ 機会だより

保育園 ぶなのもり発表会

63

2008.1.15

新年のあいさつ	2
12月定例議会	3~4
一般質問	5~8
議会のうごき	9~11
「究める・人」シリーズ No.3 りんご栽培	12

頌 春

新年のご挨拶

議長 黒坂 久一

新年あけましておめでとうございます。

昨年4月の町議会議員選挙から10人の議席となり、この8か月の間、さまざまな面で、一人ひとりが議員として、議会として、省みたときに、まさに激動の連続そのものであったというのが率直な感想でありました。そのことは、議員として責任をもって対応された結果と捉えるべきなのか、あるいは重要課題が多かったということなのか、いずれにしても将来のまちづくりを見据える重要な年でありました。

新しい年を迎え、心を新たにしたときに、これからも議会制民主主義に対しさまざまな考え方があっても、選ばれた10人の議員が、権威をもってルールに則った議論をしていただくよう各位に願うものであります。

誰しもが願うは、町の発展と町民の幸せであることを先に捉えて、行動する議会であるように努力をしまいにすので、町民の皆様のさらなるご支援をお願い申し上げます。



第4回

12月定例議会

議決された議案



一般議案 5件
条例案 6件
補正予算案 7件など

一般議案

◎西川町過疎地域自立促進計画の一部変更

平成16年12月に策定された計画に次の事業を追加

◆交通通信体系の整備

◆除雪機械購入事業

◆生活環境の整備

◆小型消防ポンプ購入事業
海味大堰流雪溝改修工事
(延長が185メートル)

◎字の区域及び名称の変更

国土調査法に基づく地籍調査の実施により、間沢、網取及び水沢の一部の区域の字の名称を変更

◎西村山広域行政事務組合規約の一部変更

「収入役」を「会計管理者」に、「吏員その他の職員」を「職員」に変更

◎山形県後期高齢者医療広域連合規約の一部変更

事務所の所在地を「山形

市内」から「寒河江市内」に変更

◎山形県市町村職員退職手当組合を組織する地方公共団体の数の減少及び規約の一部変更

鶴岡地区衛生処理組合及び鶴岡地区消防事務組合の解散に伴い規約から削除

条例案

◎地方公務員の育児休業等に関する法律の一部改正に伴う関係条例の整備に関する条例の設定

町職員の少子化対策として育児と仕事を両立させるための育児短時間勤務制度等を導入

◎西川町職員の自己啓発等休業に関する条例の設定

町職員が公務の能率向上のために大学等課程の履修や国際貢献活動のための休業制度を導入

◎政治倫理の確立のための西川町長の資産等の公開に関する条例の一部改正

郵政民営化法等の施行に伴い、規定を整備

◎西川町一般職の職員の給与に関する条例の一部改正

人事院及び山形県人事委員会の勧告に基づき、町職員の給与改正と規定を整備

◎西川町国民健康保険税条例の一部改正

健康保険法等の改正に伴い、国民健康保険税の徴収について、平成20年4月から納税義務者が65歳以上の方は公的年金から徴収

◎西川町児童遊園設置条例の一部改正

長沼、大井沢及び西川東部の児童遊園を廃止し、この3遊園を廃止した後の児童遊園は、睦合、吉川、上間沢及び稲沢の4遊園

補正予算案

◎平成19年度西川町一般会計補正予算(第3号)

5307万4千円を減額し、歳入歳出予算総額は、45億6571万1千円

主な内容

◆統合小学校建設用地を土地開発基金で取得するため1億1千万円を減額

◆克雪住宅建築奨励補助金 72万円

◆水沢温泉館のろ過ポンプ等修繕料 124万9千円

◆国民健康保険特別会計繰出金 30万円

◆老人保健特別会計繰出金 555万4千円

◆介護保険特別会計繰出金 1252万2千円

◆町道水沢岩根沢線防雪対策

策工事調査委託料 200万円

◆睦合及び間沢地区の農業用施設災害復旧工事費 163万4千円

◎平成19年度西川町国民健康保険特別会計補正予算(第2号)

73万5千円を追加し、歳入歳出予算総額は、7億6212万2千円

主な追加内容

保険給付費の組み替えを行うほか、出産育児一時金の追加並びに国民健康保険ネットワーク構築のためのパソコン導入等

◎平成19年度西川町老人保健特別会計補正予算(第2号)

1478万円を追加し、歳入歳出予算総額は、7億8714万3千円

主な追加内容

◆医療給付費(見込み) 500万円

議決された議案

◆高額医療費（見込み）

500万円

1252万2千円を追加し、歳入歳出予算総額は、6億1216万2千円

◎平成19年度西川町簡易水道特別会計補正予算（第1号）

168万円を追加し、歳入歳出予算総額は、257万4千3千円

主な追加内容

大井沢見附橋添架管補修工事費

◎平成19年度西川町公共下水道事業特別会計補正予算（第1号）

22万6千円を追加し、歳入歳出予算総額は、3億8593万3千円

主な追加内容

人事院勧告及び山形県人事委員会勧告に基づく給与及び手当等

◎平成19年度西川町介護保険特別会計補正予算（第2号）

主な追加内容

保険給付費の組み替えを行うほか、平成18年度の清算に伴う国への返納金並びに準備基金への積み立て

◎平成19年度西川町水道事業会計補正予算（第2号）

（資本的収支予算）
町道山岸線側溝整備に伴う配水管の移設工事費25万円を追加

請願

◎採択された請願

◆医師・看護職員確保対策の充実についての請願書

提出者

山形県民主医療機関連合会
会長 伊藤 英二

山形県医療労働組合連合会
執行委員長

◎不採択となった請願

◆海味アソウ地区に予定中の統合小学校に係る建設用地計画を、一段高い所に建設し善処を図る請願

提出者

一段高い所に統合小学校建設をめざす町民の会
代表 佐藤 健一



満席になった傍聴席

今井 敏彦

008年4月実施の中止を求める意見書を政府等に提出することの請願書

提出者

全日本年金者組合西村山支部
代表者 東海林 正志

◆後期高齢者医療制度の抜本的見直しを求める請願について

提出者

山形県社会保障推進協議会
会長 高木 紘一

意見書

◎道路整備の推進と財源の確保・充実に関する意見書

内 容

真に必要な道路の整備・管理に必要な事業量を確保し、道路特定財源を全て道路整備を強力に推進するために充てること、さらには平成20年度以降も道路特定財源諸税の暫定税率を延長

し、地方道路整備臨時交付金制度を継続するよう求める意見書

提出先

衆議院議長、参議院議長、内閣総理大臣、総務大臣、財務大臣、国土交通大臣

◎医師・看護職員確保対策の充実強化を求める意見書

内 容

医師・看護職員が不足する現状を抜本的に解消し、将来にわたって国民誰もが質の高い医療、安全で安心できる看護・介護などを等しく受けられるよう、地域における医療・介護・福祉の中枢を担う医師・看護職員の確保対策の充実強化をはかる措置を講ずるよう求める意見書

提出先

衆議院議長、参議院議長、内閣総理大臣、厚生労働大臣、総務大臣、財務大臣、山形県知事

統合小学校建設用地に係る町民有志の会の過半数の署名をどう捉えるか

町長…署名は全てではないと思う。



池上 博 議員



保育園の年少児（ぶなのもり発表会）

町民の切ない思いが込められている過半数の署名をどう捉えていますか。

議員全員が、建設用地に関する嘆願書をいただきました。私はその趣旨に賛同し、また私の周囲の町民の多くの声も同様です。そこで、私の政治信条から、住民の声を基に質問します。

署名簿を確認してもらったところ、同一人が複数以上署名のものなどが含まれていると想定され、おっしゃる数が、実際の数ではないと受け止めています。また、署名簿の趣旨の内容も、これまで町が説明してきた内容や現況と大きくかけ離れており、収集方法や理解という点でも、全てがそうだとは思いませんが、適切でない表現をそのまま理解して署名してしまった、不本意だが断りきれなかった、何の理解もないまま署名してしまったという声も寄せられており、議員がおっし

やるのが全てではないと受け止めています。

教育委員会が主体的に責任ある立場で十分に議論しましたか。

現地調査を行い、十分検討しました。

用地選定委員会が選定した西川せせらぎ団地南側を町の決定では海味アソウ地区と突然変更した理由は。

このことは誤解のないように申し上げますが、用地選定委員会で「せせらぎ団地南側に決定した」、また、その決定を町が変更したなどという事実は決してありません。

統合小学校を海味アソウ地区に建設すれば、災害時の避難場所としての活用は難しい。これまで、学校が避難場所でなくともよいと答弁されていますが、その真意は。また、その場合、海味地

区の避難場所は。

前回の議会質問の答弁の断片を捉えての質問です。答弁の意味は、学校の目的の第一義は教育を行うことであり、避難場所をつくるために学校を建てるのではないという意味で申し上げたものです。西山小学校を避難場所と考えています。

本町の実質公債比率（※1）は21・2パーセントで、統合小学校建設後の町民の負担が心配されますが。

小学校の問題について、議員は、統合すべきではないということなのか、あるいは新築すべきでないということなのかわかりませんが、児童数の減少という現実、そしてこれまでの議論から考えても、統合小学校建設は絶対必要であり、仮にこの比率が一時、上昇するとしても、町が持続的に運営できるように常に注視をしつつ、課題解決にあたらなければならぬと考えて

います。

統合小学校建設を町の活性化の拠点づくりと捉えては問題があります。そういう考えはありませんか。

私はこれまで、町の活性化を図る拠点施設として、統合小学校を建設するなどは申し上げておりませんが、そのように捉えてはおりません。しかし、用地選定委員会の答申は間沢海味線沿線ということでしたし、間沢・海味地域の一体的な土地利用と今後の町づくりについて総合的に考えると、定住人口の拠点地も間沢海味線沿線であるべきだと考えた結果です。

用語の説明

※1 実質公債比率
平成18年4月から導入された財政指標で、普通会計の公債費に、公営企業の公債費への繰出金などを加えた合計額が経常的な収入に占める割合で、前3年度の平均値

町長の政治理念は？

町長…町民の声に耳を傾けながら町政をすすめる。



渡 邊 久一郎 議員

町長の政治理念と 統合小学校の建設 場所について

統合小学校の建設場所の決定については、議会や町民による検討、町民アンケート等が一切考慮されていないと思えます。

用地選定委員会の答申を十分尊重しつつ決定してきたつもりです。その結果として、議会全員協議会において、現在の計画について賛成多数でお認めをいただき、作業を進めています。

町長の町政に対する理念は、平成14年の就任の際の挨拶といささかも変わりないと思えます。

「町民の声に耳を傾けながら町政をすすめていく」とは、いろいろなご意見をお聞きし、町長として最終判断をするということであり、これまでもそうしてきたつもりですし、今後も変えるつもりはありません。

統合小学校の建設場所については、これまでも幾度となく町民アンケートの実施を求めてきましたが、無用な混乱を招くとの考えに変わりありませんか。

この学校問題は、多種多様な意見がある難しい問題であることから、これまでいろいろな場で議論を積み重ねて現在に至っているわけです。それを、振り出しに戻すようなことをやれば、町民に混乱を巻き起こすことになるかと申し上げてきたわけです。すでに議会で決定をいただき、用地取得を

進めているわけで、そのようなことをすべきではないと考えています。

町民の有志の会の署名数3057人をどう受け止めていますか。

署名者数については、池上議員にお答えしたとおりです。会代表の方々とこれまで幾度となく説明し、さらに、町民の皆様には町報の特集で説明しております。関係団体の皆様にも説明をしてきました。今後も機会を捉えて説明してまいります。

第5次総合計画 (中期実施計画) の人口集積地づくりについて

概算事業費で13億5150万円を投入し、人口集積地づくりをする計画ですが、役場周辺のみの一極集中であり、他地区の活性化をどう図りますか。

移動町長室でも説明のと

おり、中期実施計画の最大のテーマは定住人口の維持確保と捉え、4つの重点課題を中心に町内全域の振興発展を図る計画です。

定住人口の維持確保を図るためには、町内で得られる経済的な裏づけが必要不可欠です。

町内の商工業等就労の場の現状と見通しは。

現状は、事業所数や従業員数とも減少しており、引き続き、誘致企業や小規模起業に対する支援、「特産品の生産拡大とブランドづくり」、「市場外流通の促進と販売拡大」、「既存企業、事業所等に対する支援と町内商業の活性化」等に取り組んでいくつもりです。

本町の若年生産年齢層(16〜40歳)の就労の場について、どう捉えていますか。

平成17年国勢調査によりまずと、全人口の約半数が就業者で、うち約四割が町内就業となっています。若

い世代ほど町外に就業している率が高くなっています。今後とも企業誘致なども含め町内の既存企業の支援をすすめ就労の場の確保に努めていきます。

町が示した役場南側土地利用構想の商業機能を備えた区画には、どのような商業を想定していますか。また、その見通しはありますか。

まだ構想の段階で、現段階での見通しはありません。商店等機能は町民生活上不可欠であり、商店機能を確保する場所も必要だと考えてのことです。

役場周辺以外に人口集積地が考えられないとすれば、統合小学校の建設場所は、他にもあると考えますが。

統合小学校の建設場所を用地選定委員会から間沢海味線沿線と答申をいただいたわけで、町としても公共施設も集積し、人口集積地の核とすべきと考え決定したところです。

統合小学校建設用地に係る民意をどう捉えるか

町長…池上、渡邊両議員に答弁のとおり町民の声に耳を傾け判断した。



議員 三郎 雄三 谷 洪

統合小学校の建設について

一段高い所に統合小学校建設をめざす町民の会の署名が、有権者の過半数を超える3千人以上の方から寄せられています。どのように受け止めていますか。また、町民の直接意思こそが民意と思いますが。

署名についてのよう受け止めているかについては、池上議員、渡邊議員にお答えしたとおりです。

統合小学校の用地選定委員会の会議録について、町

では公文書でないとして繰り返してきていますが、公文書、私文書の定義は。

公文書の定義は、いろいろな呼び方がありますが、厳密に言えば、権限資格に基づいて職務上作成した文書であると解されており、

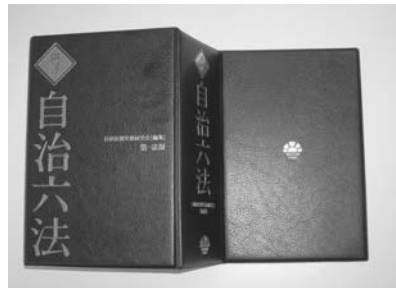
前回ご質問にお答えしたとおり、私文書などではもちろんありませんが、会議の内容について口述筆記で要約したものであり、これを公文書かと、改めて問われれば、公文書とは言い難く、これは内部文書の範疇であると解しているところです。

地方自治法の公文書の定義は。

第149条で、市町村等の首長は、証書及び公文書類を保管することと規定しています。

決裁文書とは。

決裁とは、町長、町長の権限の委任者などが、その権限の事務処理を最終的に意志決定を行うことであり、それに関わる文書だと理解しています。



後期高齢者医療制度について

後期高齢者医療制度は、

75歳以上の高齢者を国民健康保険や健康保険から追い出し、「保険料の値上げかそれが嫌なら医療の制限か」という悪魔の選択に追い込んでいく高齢者医療を根底

から変える制度ですが、この制度をどう捉えていますか。

老人医療の動向から懸念されている医療制度全体の改革は、必要と考えています。今回の制度改正がベストプランとは考えていませんが、抜本改革の第一歩と捉えています。

後期高齢者医療広域連合の議員数や、条例及び規則の決め方などは妥当ですか。

昨年度に県内35市町村の首長で構成する広域連合設立準備委員会で検討し合意したもので、35市町村の各議会の議決を得て進めてきたものです。

平成20年4月の実施を前にして、一部凍結と言いついては、このように不備な制度は、政府に中止や見直しなどを要望すべき

か。と思いますが、いかがですか。

国政レベルの動向を注視し、本町からは地方に不利な制度にならないように、申し上げるべきところは申し上げていきますが、制度の4月実施の中止や見直しについての政府要望は、いまのところ考えていません。



元気な高齢者のみなさん（町高齢者大運動会）

市町村合併の考え方は

町長…引き続き自立して運営していく。



山形短期大学のグループ研修活動（大井沢小中学校）



古澤 俊一 議員

町の遊休地・無使用施設について

本町の遊休地は平成17年現在、土地及び建物で23件あります。

その後の売却状況と未売却物件の維持経費は。

現時点で、23か所中、6か所の処分を完了していません。維持管理費用は特段発生していません。

小中学校の休校舎が3校あり、その一つの大井沢小中学校を山形短期大学で利用していただいています。残り2校と、今後増える休校舎の活用は、本町だけでは無理があります。人口及び財政が豊かな都会に活用の打診の必要があるのでは。

今年度から3小学校が休校となり、小山分校は解体を完了しており、大井沢小中学校は、今年度、山形短期大学とサブキャンパスと

して利用することについて町と協定を締結し具体的に利用いただいています。

入間小学校は、休廃止校の資料展示室として、今年度は初年度でもあり帰省者の多いお盆に一般開放を行ったところです。

岩根沢小学校は、まだ具体的利用は図られない状況ですが、いずれも十分な利用とは言えず、今後とも有効利用について引き続き検討していきます。維持管理費については、およそ350万円ほどと見込んでいます。

無使用施設が早期に処分できるように県当局等への働きかけを行う必要があります。そして、都会の小學生等のいろいろな学習活動に活用していただけるよう、早急に宣伝用の資料等を作成し発信すべきでは。

あらゆる方策を検討し、早急に進めたいと考えています。ただ、現校舎をその

まま利用できればともかく、目的や用途によっては多大な改修費用が伴うわけで、費用対効果の面も考えなければならぬ難しい問題だと思っています。

市町村合併問題について

町では、第5次総合計画の中期計画の策定に向けて、統合小学校の建設をはじめ、人口集積地づくりなどの構想を検討している中で、県知事の強行とも取れる市町村合併推進の話合いが数多く開催されています。

市町村合併に対する今後の方向性は。

新聞報道がありました。私は、西川町を引き続き自立して運営していくつもりに全く変わりはありません。ただ、新しい法律が施行さ



市町村合併の考え方を説明する近松町長（町高齢者大学閉校式）

れ、知事も非常に積極的だという大きな情勢の変化もありますし、人口の少ない町村にとっては、終わりのない課題であり、未来永劫合併しないとは言明はできないとも考えています。

そのことから、仮に合併について考えるようなテーブルが準備された場合には、それを否定するつもりはありません。仮に、枠組みはと聞かれれば、前回の協議の経験から、もっと広範な枠組みであるべきなのではないかという思いがあります。

議会のうごき

臨時議会

11月21日（第4回）

山形県後期高齢者医療広域連合議会議員の選挙

山形県後期高齢者医療広域連合は、平成20年4月から新しくなる75歳以上の後期高齢者医療制度に係る医療給付及び保険料の賦課等の事務を行っています。その議会の議員について、構成市町村の議会議員の中から選挙を行いました。

12月26日（第5回）

西川町統合小学校建設用地の取得について

町が次により財産を取得することを議決する。西川町大字海味字アソウ地区の56筆4万5082・77平方メートル取得予定価格 1億507万6035円
土地所有者 31人

一級河川の権限委譲に関する意見書

内容

同一都道府県内で完結する一級河川であっても、洪水被害による社会経済活動の麻痺による影響が広域に及ぶ場合や、的確な洪水予測技術など河川管理に高度な技術力を要する場合等については、国が自ら管理者として責任を果たすよう求める意見書

提出先

衆議院議長、参議院議長、内閣総理大臣、総務大臣、財務大臣、国土交通大臣、内閣官房長官

常任委員会

総務厚生常任委員会 産業建設常任委員会

10月16日～18日

合同行政調査

◆介護予防について
とつぶ・さんて大洋（茨城県鉾田市）

◆商業振興について
桜川市真壁商工会（茨城県桜川市）

◆議会活性化について
野木町議会（栃木県野木町）

内容については、10～11ページをご覧ください。

全員協議会

9月19日

統合小学校用地について

建設予定地について協議

9月27日

統合小学校用地について

建設予定地について協議

10月9日

統合小学校用地について

統合小学校の建設予定地については、3月26日の全員協議会で町長から、将来のまちづくりや小中一貫教育を進めることを重視し、役場庁舎南側、海味アソウ地区にしたいとの説明がありました。そのときは異論はなく散会したものの、4月に行われました町議会議員選挙の後に議員の中から、主に海味アソウ地区の地形的なことに反対する意見が出されました。そこで、全員協議会の中で議論をすることで、7月2日を皮切りに6回にわたり全員協議会を開催し議論を重ねてきました。

6回の全員協議会では、統合小学校の建設予定地を海味アソウ地区とすることに賛成、反対の議論は平行線のままでした。第7回目となるこの全員協議会は、公開として傍聴を許可して開催し、39人の傍聴者が見守る中、議員一人ひとりが統合小学校の建設予定地についての意見を述べた後、採決が行われました。

採決の結果、賛成多数で統合小学校の建設予定地を海味アソウ地区とすることを議会の総意と決定しました。

12月5日

統合小学校用地取得の状況及び統合小学校建設に係る補正予算について

統合小学校の建設用地の取得状況について、11月末現在で、対象地権者28人のうち27人から調印をいただいたことが町から報告されました。

また、用地の購入（物件等の補償を含む）に際しては、過疎債や義務教育債等の財政的に有利な起債を発行してその財源に充てるために、本年度、土地開発基金で購入し、来年度以降、一般会計で買い戻すことについての説明がありました。

◎今後の社会福祉協議会の事務局体制について

社会福祉法人西川町社会福祉協議会について、福祉行政との連携を一層強化して、民生児童委員や福祉町内会等の地域住民や福祉関係者と協働で地域福祉の充実に努めるために、平成20年4月の実施に向けて事務局及び業務等の見直しを進めていたことが町から報告されました。

主な見直し内容は次のとおりです。

- 1 社会福祉協議会の事務局（現在は老人福祉センター内）を町保健センターに移転
- 2 老人福祉センターの維持管理業務を西川町シルバー人材センターに委託
- 3 在宅介護のヘルパーを社会福祉法人西川保健福祉会（ケアハイソ西川）に統合

◎特定健康診査・特定保健指導に対する町の基本方針について

平成20年4月から、40～74歳の方を対象に、内臓脂肪型肥満（メタボリックシンドローム）に着目し、その要因となっている生活習慣を改善するための保健指導を行い、糖尿病等の有病者・予備群を減少させることを目的として、特定健康診査・特定保健指導を実施することが町から報告されました。

◎後期高齢者医療に関する条例の概要について

山形県後期高齢者医療広域連合議会が可決成立した条例について町から報告されました。

森林・林業・林産業活性化促進議員連盟・連絡協議会

県の森林・林業・林産業活性化促進議員連盟・連絡協議会の総会が10月4日、

山形市のオーヌマホテルで行われ、4人の議員が出席しました。

本連盟は、森林・林業・林産業活性化推進を図る立場から、本町議会をはじめ各市町村議会や県議会と組織しているもので、総会では、本年度の事業計画や収支予算等について協議されました。

また、総会終了後、「異常気象や温暖化における森林の果たす役割について」と題して気象庁山形地方気象台長の講演がありました。

町村議会議員研修会

県町村議会議長会主催の町村議会議員研修会が10月12日、山形国際交流プラザ（ビックウイング）で行われ、全議員が参加しました。

研修会では、地方分権が進む中で地域住民の負託に応えるための議会のあり方について講演がありました。

行政調査のために来町された議会

■千葉県館山市議会

10月30日、月山湖（寒河江夕凧）大噴水の建設までの経過や現在の維持管理状況等調査のため、5人の議員が来町されました。



とつぷ・さんて大洋

■長野県生坂村議会

10月31日、自立のまちづくりや協働の地域づくりの取り組み状況等調査のため、5人の議員と議会事務局職員1人の6人が来町されました。

行政調査報告

■介護予防について

とつぷ・さんて大洋

茨城県鉾田市の健康増進施設「とつぷ・さんて大洋」を訪れました。旧大洋村の時代に、ふるさと創生1億円交付事業において健康づくり施設が立案され、平成2年度に自治省（当時）の地域づくり推進事業の指定を受けて誕生した施設です。

この施設の温水プールやトレーニングルーム等を活用しながらソフト及びハード事業を展開し、特に運動トレーニング事業等と関係する諸研究機関と連携して介護予防に取り組んできました。とりわけ高齢者が寝

たきりになる原因の第一に転倒による骨折があり、それはMRIにより筋肉量が弱くなることが科学的に立証され、大腰筋が加齢とともに減少することが判明し、それを鍛えるトレーニングで転倒予防が実証されたことが印象的でした。

当日、説明していただいた旧大洋村長は、高齢者が確かな運動を継続的に実践することにより、より確実に医療費を削減することが確認されたと自負していました。このことは、本町でも多いに普及啓発する必要がありますを強く感じました。



桜川市真壁商店街

(総務厚生常任委員長 池上 博)

■商業振興について

桜川市真壁商工会

茨城県の旧真壁町は、平成17年10月に、2町1村により合併し、桜川市として

運営している自治体です。市の人口は約4万9300人で、うち旧真壁町は約1万9600人であり、減少が進んでいるとのこと。主な産業は石材業、農業で、真壁商工会は会員数790人で構成されています。主な事業としては、インターネット活用、地域振興対策、商工会振興調査、特産品等販売開拓支援、がんばる商店街支援等の事業を、平成11年から18年まで県等の補助事業として実践しています。古民家を活用し、休憩所、案内所、展示場、農産物や特産品の直売所として利用しています。特に民家での雛祭は、本県の中山町からヒントを得て実施しているそうです。

商工業の実態は、大型店舗の進出や若者の就労場所の変化による移出、少子化の進行による後継者問題等、先行きが心配されるというような悩み事も話されていました。

(産業建設常任委員長 渡邊 久一郎)

■議会活性化について

野木町議会

一般質問について、既に対面型一問一答方式を実施していることから栃木県の野木町議会を選択しました。野木町議会の一問一答方式は、発言制限時間が答弁を含んで45分で行い、その様子を役場本館の1階ロビー及び議員控室のテレビで中継しています。

その他にも議会活性化のために、議会運営委員会が主体となり、子ども模擬議会及び女性模擬議会を開催しており、今後、シルバー模範議会を開催すべく審議検討しています。

また、定例会ごとに議会運営委員会が「野木町議会からのお知らせ」を作成し、町内の公共施設等13か所で配布しています。その他には、議



野木町議会

員が町の各種委員会及び審議会等の委員等へ就任することを制限し、町民に就任の機会を開くために「野木町議会議員の各種委員会、審議会等の委員等への就任要綱」を制定しています。野木町議会では、町民に身近な議会、町民参画・協議による開かれた議会への改革と活性化の実現を図るためにさまざまな議会活動を行っており、本町議会でも今後、参考にしていきたいと考えています。

(議会運営委員会委員 井場 榮治)

栄えある勲章



荒木國男さん(吉川)が地方自治功労が認められ、旭日単光章(きよくじつらんこうしょう)を授章されました。

荒木さんは、昭和46年5月から62年4月までの4期16年にわたり町議会議員を務められ、その間、総務常任委員長、産業建設常任委員長等の重責を果たされました。

去る12月26日に招集された第5回臨時会で、近松町長から伝達されました。

りんご栽培



一筋に半世紀

西谷 庄一さん
(海味・70歳)

半世紀以上、1ヘクタールの樹園地でのりんご栽培を中心に農業一筋に生きてきました。

年間でもっとも忙しいのは5〜7月です。妻といっしょに、中心の花だけを残す花摘みや摘果の作業に汗を流します。この作業をまめにやらないと秋の収穫のときに粒が小さかったり少なかったりします。それから、台風には、はらはらさせられます。現在では、乳牛の堆肥を用いて栽培した「つがる」「シナノスイート」「シナノゴールド」「王林」「秋陽(しゅうやう)」の6品種を出荷しており、中でも主流は「ふじ」です。もうやむ5年ほど前から、JAさがえ西村山のふじりんご品評会で入賞できるようになりました。お客様からの「おいしかった。」「とうとう言葉が気力の源です。」

りんご栽培を始めたのは親父のときです。戦後、養蚕畑をりんご畑に転換しました。りんごの木が一人前になるには30年の歳月を要すると言われています。幼木の雪掘りなど、親父が木を育てたから、いまこうして続けられるのかなと思うと親父には感謝しています。

近年、12月の中旬になっても果樹の葉が青いのが気になります。以前ですと11月下旬には落ちていたんです。温暖化の影響なのかなと感じています。これからも体の許す限り、おいしいりんご栽培に精を出します。



63号の表紙

役者だね〜 わが家の男優・女優たち

12月8日に開催された、しかわ保育園の「ぶなのもり発表会」。年少児以上の園児150人が、1か月間、一生懸命練習してきた成果を発表しました。会場の「ぶなのもり広場」は、立ち見が出るほどの大入りで、園児の家族500人が大きな拍手を送っていました。

編集後記

新年あけましておめでとうございます。

「光陰矢の如し」とは昔のことわざで、『光陰矢よりも速し』の感じがするのは、私だけではないと思います。

以前は、中流意識が主流な世の中でしたが、近年、わが国では随所に格差問題が表面化しています。

都市と地方の格差をはじめ、景気格差、所得格差、情報格差等々、これらの多くは市場原理主義からきたとも言われていますが、格差のない社会をめざして、総合的なバリアフリーが必要であると考えるこの頃です。今年は皆様にとりまして、良いお年になりますようお祈り申し上げます。

(宮林 昌弘)

議会へのおさそい
皆さん傍聴してみませんか
**次回定例会は
3月招集です**

《発行・編集責任者》
議長 黒坂 久一
《編集委員》
委員長 井場 榮治
副委員長 池上 博
委員 宮林 昌弘
青山 知教